

評価委員会委員からいただいた主な意見

点検・評価の客観性を確保する観点から、岸和田市教育委員会評価委員会各委員から点検・評価に関して以下のご意見をいただきました。

頂きましたご意見に対しますシートの修正や考え方について、記載（朱書き）しております。

○教育総務部 総務課 他○

項目番号 10 教員の業務負担軽減に向けた取組の推進

◇昨年度までは「総合型校務支援システム」のみだったが、今年度「学校・家庭相互連携システム」が導入されているが、当該システムの概要と効果を教えてほしい。

⇒システムの概要ですが、「tetoru」（テトル）というアプリを導入し、学校から保護者への連絡、保護者から学校への欠席連絡等をインターネット上で行うものです。また、校務支援システムの名簿情報とデータ連携させることで連絡情報をシステムに反映させることも可能となりました。従来、学校と家庭の間で行われる連絡では、手紙や電話が主な手段でしたが、このアプリの使用により、保護者にとっては、時間にとらわれずに欠席連絡ができ、また、学校からの連絡事項を見落とすことなく、いつでも見られるようになるとともに、教員にとっては、事務に割かれる時間が軽減され、児童・生徒に向き合う時間をより確保することが可能となりました。負担軽減により生まれた時間を使い、対面や電話で、質の高いコミュニケーションをとることもでき、使い方次第で可能性が大きく広がるものと考えます。

◇デジタル採点を導入することでテストの形態は変わるのですか。例えば記入式からマークシート式などに変わるのですか。採点システムのイメージがわからないので教えていただきたい。また、どのような削減効果が見込まれるのでしょうか。

⇒当該システムは、中学校の生徒が手書きで記入した回答を、画像データ化し、パソコン上で採点、得点集計するシステムです。テストの形態は従前と変わることなく、各中学校の裁量で様々な形式で行うことができます。マークシート式、記述式、両方混在した形式等あらゆる形態の回答用紙に対応しています。また、マークシートだけでなく、数式や英単語、英作文などを自動採点できるほか、設問ごとの部分点の付与、添削コメントの登録、再利用、編集が可能です。導入の効果ですが、採点基準のブレ解消による採点ミスの削減と併せて、科目や回答形式によりますが採点時間の大幅な削減が期待でき、教員の時間外勤務の短縮を図ることができます。また、生徒の学習用端末に答案をデータで返却することが可能となったほか、個々の学習課題を即時に分析、開示することができ、教師、生徒がともにこれを活用することで、学習指導の充実と学力の向上を図ることができると考えます。

◇部活動指導員の配置が進まない課題についても、可能な範囲でご説明ください。

⇒学校のニーズに基づき部活動指導員の配置を考えているところですが、国・府の補助額が減額傾向で、市の予算（負担）を増やせないことから、配置が進んでいない状況です。

《施策・事業に対する意見等》

●産業医による面接指導の実施について

80 時間を超えた月がある者が、令和 6 年度は令和 5 年度より半数以下になっている理由について補足いただき、タイムカード管理やシステムの充実、定時退校日を設けるなど、改善に向けて多方面で取り組まれていることがわかり、そういった積み重ねにより改善されているように感じました。また、定期的に教育長と校長先生が面談をされていることで、現場の声にしっかり耳を傾けながら連携して取り組まれていることが成果に結びついていると思います。

○教育総務部 学校適正配置推進課○

項目番号 9 小・中学校の適正規模・適正配置の推進

《施策・事業に対する意見等》

- 市長の交代や前提条件の変化によって、さらに協議や検討が必要となってしまいました。この課題は地域との連携が最も重要と思われるので、市長がタウンミーティングを実施されるのは、大変良い方向性だと感じました。着実に実施されていくことに期待しています。

○教育総務部 学校給食課○

項目番号 6 学校給食運営の充実

《施策・事業に対する意見等》

- 食育への取組は子ども達が地域を知ることにつながると思いますのでこれからも取り組んでいただきたいと思います。また、農家や漁師のお話を聞くと食材への理解を深めることができると感じました。

⇒学校給食における地産地消の取組は今後も広げていきます。また、農家や漁師の方とのふれあいについては、実際に農家の方から指導を受けながら田植えや収穫体験などを行っている学校も複数あります。また、浜小学校では漁師さんのご厚意で、漁船に乗せてもらい体験漁業をさせてもらっていることも伺っています。このような貴重な体験は、子ども達にとって非常に大切なものであることから、これからも、このような取組を続けて頂きたいと考えております。

○教育総務部 学校管理課○

項目番号 8 照明設備 LED 化による教育環境の改善

特になし

○教育総務部 産業高校学務課○

項目番号 3 産業教育の充実

◇入学者選抜競争率で、R5→R6→R7 と情報科で志願者が減っている理由と今後の対策を聞きたい。

⇒これまでの入試では情報科から商業科への回し合格が続いていたため、商業科より情報科の方が上位であるというイメージのもと、情報科を第1志望とし、商業科を第2志望として出願する受験生も多かったと考えております。そこで、選択制の新カリキュラムの導入など、商業科の魅力向上に取り組んできた結果、商業科の志願者が増えて情報科が減りましたが、これは受験生がイメージにとらわれず、自分に合った学科を選択して出願するようになった結果と評価しています。しかし、受験生の総数を確保する努力は必要ですので、産業高校そのもののPRを一層強化していきたいと考えます。

○学校教育部 学校教育課○

項目番号 1 授業の改善・読書活動の充実

◇チャレンジテスト対府比で、めざましい向上はみられない中、この間の一連の施策成果をどのように評価しているのか。

⇒チャレンジテストでは結果に大きな変化は見られませんが、全国学力・学習状況調査では正答率 40%以下の生徒の割合に改善が見られているため、一定の施策成果はあると考えております。基礎的・基本的な学習の定着が本市の課題であるため、小学校段階から定着をはかる必要性から、小学校を対象とした事業が多いのが現状です。引き続き、「授業改善アドバイザー」の派遣や、学力向上の取組の好事例を発信するとともに、様々なアプローチを行い学力向上につなげたいと考えております。ただし、成果の指標として「中学生チャレンジテスト正答率の対府比」を、次年度も用いるかどうかについては、検討します。

《施策・事業に対する意見等》

- 放課後学習支援事業について、とても大変だと思います。理解できなかったことが理解できるという大切な経験ができる子どもが増えることは素晴らしいと思います。可能であれば、夏休みもあると良いかと思いました。

項目番号 5 生徒指導体制・教育相談体制の充実

◇SSW の活用時間が 20%以上増加しているが、どのような状況なのか。

⇒SSW の活用ですが、令和 5 年度は市内 36 校において、1 校あたり年間 72 時間派遣し、令和 6 年度は 1 校あたり年間 88 時間派遣しておりました。各校におけるケース会議等への参加や生徒指導事案への助言、子どもや保護者との直接面談などの機会や要望が増えたことにより、活用時間を 20%以上拡充し、実施いたしました。今後も、ニーズの高まりと必要性等を勘案し、予算を拡充して実施したいと考えています。

項目番号 7 体力向上の取組の推進

◇ 5. 令和 6 年度 の取組内容 「水練学校（休校）」とありますが、今後再開の予定はありますか。もしあればその予定を入れてもらえればと思います。

⇒市民プールの老朽化によりプールの確保や使用が困難なため、水練学校を休校しており、今後については検討中ですが、休校にともない初心者水泳教室において対象者を従来は小学 1 年生から 4 年生だったところを 6 年生にまで拡大して令和 6 年度より実施しております。

◇ 岸和田市水泳指導業務委託 33 学校園で実施とありますが、全何学校園のうちの実施かわかるように示すのはどうでしょうか。

⇒「点検・評価シート」に追記いたしました。

◇ 7. 今後の課題・方向性（水泳指導業務委託）令和 6 年度は 5 中学校区…、令和 7 年度はさらに…計 38 学校園で実施する。とありますが、この記載でもあと残り何学校園なのかわかるように示すのはどうでしょうか。また、年間に 1 学校園あたり何回位実施されているのでしょうか。

⇒「点検・評価シート」に追記いたしました。

◇ 各種スポーツ大会を実施するとありますが、もう少し具体的に総合体育大会、冬季スポーツ大会の内容を記載いただけないでしょうか。

⇒「点検・評価シート」に追記いたしました。

○学校教育部 人権教育課○

項目番号 2 「あゆみファイル」の活用

《施策・事業に対する意見等》

● あゆみファイルはとてもよい取組だと思っています。支援の必要な子どもが増えているとは思いますが、大切なことだと思っていますので、子ども達のために今後もよろしく願います。

項目番号 4 研修・啓発の充実

《施策・事業に対する意見等》

● 泉佐野市の赤ちゃんポストの設置を進めている現状を受け止める性や命について正しく学ぶことは人権教育として一番大事なことだと感じています。継続して取組をお願いしたいと思います。

⇒令和 6 年度人権教育研修では、産婦人科医師を招聘し、性について、命について、実際の事例を聞かせていただきながら研修を実施しました。また、児童生徒ですが、男女共生教育リーフレット「自分らしさを大切に」を活用し、自分の命を大切にすること、他の人の命を大切にすることを学習しております。引き続き、取組の充実に努めます。

●岸和田市でも日本語指導対象の子どもたちが増えていると思うので、引き続き、通訳や日本語指導支援員の方の支援をお願いしたい。

⇒日本語指導が必要な児童生徒が年々増加しています。海外から直接転入してくる児童生徒も増えていることから、日々の生活言語や学習言語を支援する通訳や日本語指導支援員は大変重要な存在だと考えています。

○生涯学習部 生涯学習課○

項目番号 11 生涯学習基本方針の推進

特になし

項目番号 12 学び舎プログラムの実施

特になし

○生涯学習部 スポーツ振興課○

項目番号 15 部活動地域移行の推進

◇4. 取組の成果目標について、参加クラブ数5部とありますが、参加人数も成果の指標に必要では。

⇒市内中学校の運動部活動の数ですが、令和6年度は112部です。実証事業では令和5年度、6年度とも5部となっており、今年度は6部で実施する予定です。今後は、地域移行する部活動数だけでなく、参加人数についても成果指標に設定し、取組んでいきたいと考えています。

◇5. 令和6年度の取組内容について「当初から地域移行の実施へ」が桜台中学校ですが、実施回数がありますが、参加活動時間はそれぞれ違うと思いますが、平日又は土日祝かわかれば教えてほしい。また移動交通手段はアンケートにないが、それぞれどのようにして参加していますが、わかれば教えてください。

⇒参加活動は土日祝のみです。中学校で実施しており、移動交通手段は徒歩、自転車です。

◇6. 評価においてアンケートの回答者はわかりますが、全体何人中なのかわかれば教えてください。

⇒生徒数は全体で120人、保護者は120人、教員は12人です。

≪施策・事業に対する意見等≫

●部活動はとても大変だと思いますが、生徒達の経験の機会づくりの選択肢が一つでも多くあるようお願いしたいと思います。また合同地域クラブの取組は大変だと思いますがとても良い取組だと思いました。

項目番号 16 社会体育施設の適切な管理運営と計画的な施設整備

◇ 6. 評価「必要な修繕を実施し、5施設で開設できた」とありますが、5の取組内容での直営施設の整備の市民プール（朝陽・浜・桜台・八木北）以外の5施設なのか。具体的に表記してはどうでしょうか。また、令和4年度～令和6年度まで安全上の課題がありとのことで休場としている。とありますが、再開の予定はどうなっていますか。

⇒令和6年度に開設したのは、朝陽・浜・桜台・太田・八木北の5施設となっており、点検・評価シートに追記します。

休場した施設においては、プール槽の漏水等が原因となっており、改修に数千万円の費用が必要になることや、漏水が原因となって落盤事故につながる恐れがあることから、再開は難しいと考えています。現在、屋内プールの整備に向けた取組を進めており、完成するまで、屋外プールについても出来る限り維持していきたいと考えています。

◇市民プール利用者数の減少は必然的で、地域的に交通の手段により問題があり利用出来ないのが現状です。何らかの解決策が必要では。

⇒地域にあった屋外プールが休場となり、交通手段においてご不便をお掛けしていると認識しております。また、近年の酷暑による熱中症への心配や余暇の過ごし方の多様化も利用者が減った要因であると考えております。屋外プールが休場となった代替策としては、民間屋内プール市民開放デーを令和5年度から開催しています。今後は、屋内プール整備の取組の中で、交通手段についても検討します。

○生涯学習部 郷土文化課○

項目番号 17 市内文化財を活用した普及行事の開催

◇出前授業について、令和6年度は太田小学校6年生に実施されたとのことですが、複数校への実施はやはり難しいのでしょうか。

⇒令和6年度は1校でしたが、令和5年度は2校で実施しています。現状、学校からの要望に基づき実施していますので、スケジュール等が合えば複数校での実施は可能です。

項目番号 18 屋内外における多彩な行事の開催

特になし

○生涯学習部 図書館○

項目番号 13 子ども読書活動の推進

特になし

項目番号 14 資料の収集・整理・保存、及び郷土資料の整理・データ化の推進

《施策・事業に対する意見等》

●令和6年度の取組内容について、電子書籍システム利用の増加については、しっかり周知されている証だと思えます。引き続き時代のニーズに寄り添った取組に期待します。

⇒電子書籍システムについては、広報きしわだや市ホームページ、館内掲示等により周知を行うことで、貸出数を増やすことができました。今後も、電子書籍システムを多くの方に利用してもらえるよう、ニーズ沿った書籍を選書し、引き続き周知に努めて参りたいと考えております。